

ニューノーマル(新常態)時代の新世界

政府レポートから読み解く ニューノーマル時代の日本・世界経済

前田マネジメント代表 前田 紳詞

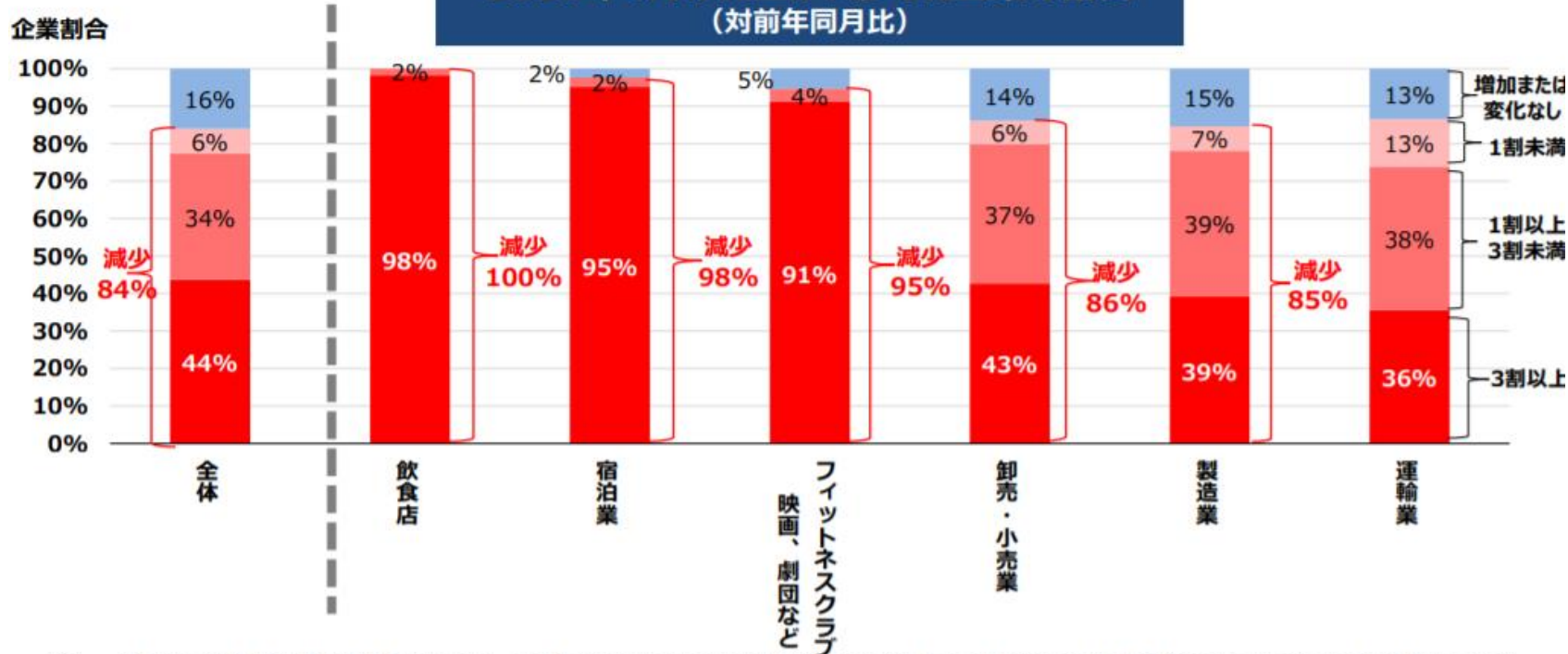
未来投資会議「第38回配布資料(令和2年5月14日)」

日本経済

売上が減少した業種

- 調査会社の日本企業に対するアンケートによると、1年前と比べて売上が減少した企業の割合は全体の84%。(2019年4月と2020年4月の比較)
- 特に、飲食、宿泊、フィットネスクラブ・映画・劇団等では、売上が減少した企業の割合が、それぞれ100%、98%、95%と高くなっている。

2020年4月の売上が減少した企業の割合
(対前年同月比)



(注) 全国の大企業、中小企業を対象としたアンケート調査(2020年4月23日-5月12日にインターネットで実施するアンケート調査のうち、4月28日午前9時までに回答があった者を速報値として集計したもの)

「貴社の今年(2020年)4月の売上高は前年同月を「100」とすると、どの程度でしたか?」との質問に対する回答割合(回答数6,186者)

(出所) 東京商工リサーチ「第4回新型コロナウイルスに関するアンケート調査(速報値)」(5月1日公表)を基に作成。

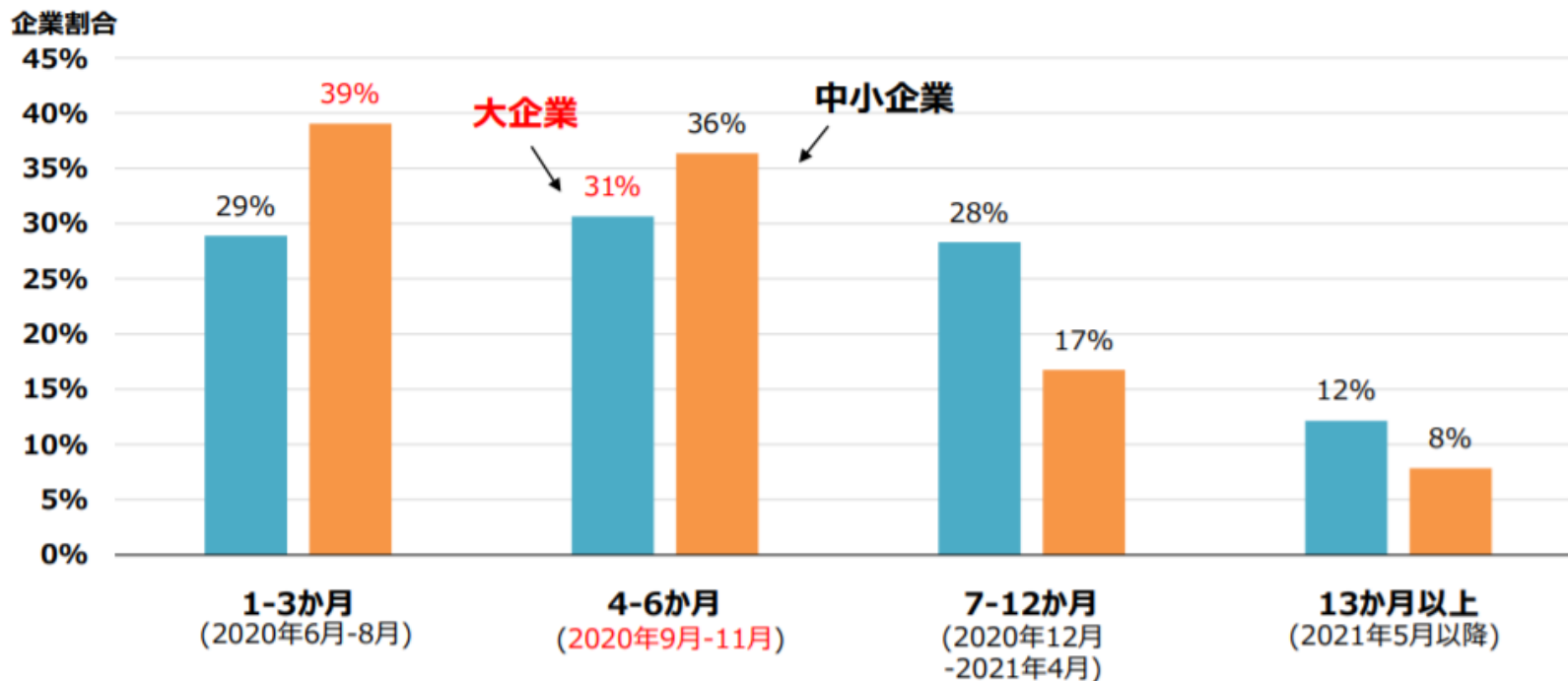
未来投資会議「第38回配布資料(令和2年5月14日)」

日本経済

現在の状況が続いた場合の決済への影響

- 同アンケートによると、「現在の状況が続いた場合、何か月後の決済が心配か」との問いに対し、大企業は「4-6か月（2020年9月-11月）」（31%）、中小企業は「1-3か月（2020年6月-8月）」（39%）との回答が最も多い。

「現在の状況が続いた場合、何か月後の決済が心配か」に対する回答した企業の割合



(注) 全国の大企業、中小企業を対象としたアンケート調査（2020年4月23日-5月12日にインターネットで実施するアンケート調査のうち、4月28日午前9時までに回答があった者を速報値として集計したもの）

大企業：資本金1億円超（173社）、中小企業：資本金1億円以下又は個人事業主（4,059者）。

(出所) 東京商工リサーチ「第4回新型コロナウイルスに関するアンケート調査（速報値）」（5月1日公表）を基に作成。

日本、世界経済の現状と今後

出典元: 外務省「[主要経済指標](#)」各国の実質GDP成長率

	日	米	独	仏	英	ユーロ圏	EU	露	中	韓	豪	印	伯
2015年	1.3	3.1	1.5	1.1	2.4	2.1	2.4	▲ 2.0	7.0	2.8	2.3	8.0	▲ 3.5
2016年	0.5	1.7	2.2	1.1	1.9	1.9	2.0	0.2	6.8	2.9	2.8	8.3	▲ 3.3
2017年	2.2	2.3	2.6	2.3	1.9	2.6	2.8	1.8	6.9	3.2	2.5	7.0	1.3
2018年	0.3	3.0	1.3	1.8	1.3	1.9	2.1	2.5	6.7	2.9	2.8	6.1	1.3
2019年	0.7	2.2	0.6	1.5	1.5	1.3	1.5	1.3	6.1	2.0	1.8	4.2	1.1
2015年7-9月	▲ 0.2	1.5	1.7	1.4	1.7	1.8	2.1	▲ 1.7	7.0	6.0	4.4	8.0	▲ 4.3
10-12月	▲ 1.5	0.6	1.9	0.5	3.0	1.6	1.9	▲ 1.6	6.9	2.9	2.3	7.2	▲ 5.5
2016年1-3月	2.1	2.3	3.5	2.8	0.7	2.4	2.2	▲ 0.2	6.9	1.1	3.6	9.1	▲ 5.2
4-6月	0.5	1.3	1.6	▲ 1.0	2.1	1.1	1.4	0.3	6.8	4.6	2.9	8.7	▲ 3.2
7-9月	0.9	2.2	1.0	0.9	1.8	1.8	1.8	0.1	6.8	1.8	0.6	9.7	▲ 2.5
10-12月	1.2	2.5	1.5	2.4	2.6	3.0	3.4	0.5	6.9	3.1	4.2	8.6	▲ 2.2
2017年1-3月	4.8	2.3	5.0	3.3	2.3	2.9	3.1	1.3	7.0	3.3	1.2	6.3	0.4
4-6月	1.2	1.7	2.6	2.9	1.0	2.8	3.0	2.3	7.0	2.8	2.6	5.8	0.9
7-9月	2.3	2.9	3.6	2.8	1.4	3.1	3.1	2.6	6.9	6.0	4.0	6.5	1.6
10-12月	1.9	3.9	3.4	3.5	1.6	3.4	3.4	1.0	6.8	▲ 0.3	2.1	7.6	2.4
2018年1-3月	▲ 1.7	3.8	▲ 0.8	0.6	0.2	1.1	1.4	2.2	6.9	4.3	3.6	8.2	1.5
4-6月	1.5	2.7	1.9	0.8	2.1	1.4	1.7	2.6	6.9	2.5	3.2	7.1	1.1
7-9月	▲ 3.2	2.1	▲ 1.3	1.4	2.4	0.8	1.0	2.5	6.7	2.3	1.3	6.2	1.5
10-12月	2.3	1.3	1.4	2.6	0.9	1.7	1.9	2.8	6.5	3.5	0.7	5.6	1.2
2019年1-3月	2.8	2.9	2.5	2.2	2.7	2.0	2.2	0.4	6.4	▲ 1.4	1.8	5.7	0.6
4-6月	1.7	1.5	▲ 2.0	1.0	▲ 0.2	0.8	1.0	1.1	6.2	4.1	2.5	5.2	1.1
7-9月	0.2	2.6	1.2	0.6	2.1	1.1	1.3	1.5	6.0	1.5	2.2	4.4	1.2
10-12月	▲ 7.0	2.4	▲ 0.1	▲ 0.7	0.0	0.1	0.3	2.1	6.0	5.4	2.1	4.1	1.7
2020年1-3月	▲ 2.5	▲ 5.0	▲ 7.8	▲ 21.7	▲ 8.5	▲ 13.6	▲ 12.1	1.6	▲ 6.8	▲ 5.0	▲ 1.2	3.1	▲ 0.3
4-6月	▲ 27.8	▲ 31.7	▲ 33.5	▲ 44.8	▲ 59.8	▲ 40.3	▲ 39.2	▲ 8.5	3.2	▲ 12.7	-	-	-

(備考) 1. 出典: Datastream, Eurostat, 内閣府「海外経済データ」(令和2年8月)

IMF "World Economic Outlook Database, April 2020"

2. 季節調整済、前期比年率(%) 3. ロシア、中国、ブラジル、インドの四半期データは前年同期比。

4. 「EU」は全ての期間について英国を除く27か国分。

日本、世界経済の現状と今後

出典元: 外務省「[主要経済指標](#)」国際機関の経済見通し

(実質GDP成長率(%))

	IMF (2020.6) ¹				OECD (2020.6) ²		
	2018年	2019年	2020年 予測値	2021年 予測値	2019年	2020年 予測値	2021年 予測値
世界計	3.6 (3.6)	2.9 (2.9)	▲ 4.9 (▲ 3.0)	5.4 (5.8)	2.7 (2.9)	▲ 7.6 (2.9)	2.8 3.0
日本	0.3 (0.3)	0.7 (0.7)	▲ 5.8 (▲ 5.2)	2.4 (3.0)	0.7 (1.0)	▲ 7.3 (0.6)	▲ 0.5 (0.7)
米国	2.9 (2.9)	2.3 (2.3)	▲ 8.0 (▲ 5.9)	4.5 (4.7)	2.3 (2.3)	▲ 8.5 (2.0)	1.9 (2.0)
カナダ	2.0 (2.0)	1.7 (1.6)	▲ 8.4 (▲ 6.2)	4.9 (4.2)	1.7 (1.5)	▲ 9.4 (1.6)	1.5 (1.7)
ドイツ	1.5 (1.5)	0.6 (0.6)	▲ 7.8 (▲ 7.0)	5.4 (5.2)	0.6 (0.6)	▲ 8.8 (0.4)	1.7 (0.9)
フランス	1.8 (1.7)	1.5 (1.3)	▲ 12.5 (▲ 7.2)	7.3 (4.5)	1.5 (1.3)	▲ 14.1 (1.2)	5.2 (1.2)
イタリア	0.8 (0.8)	0.3 (0.3)	▲ 12.8 (▲ 9.1)	6.3 (4.8)	0.3 (0.2)	▲ 14.0 (0.4)	5.3 (0.5)
英国	1.3 (1.3)	1.4 (1.4)	▲ 10.2 (▲ 6.5)	6.3 (4.0)	1.4 (1.2)	▲ 14.0 (1.0)	5.0 (1.2)
韓国	2.9 (2.7)	2.0 (2.0)	▲ 2.1 (▲ 1.2)	3.0 (3.4)	2.0 (2.0)	▲ 2.5 (2.3)	1.4 (2.3)
台湾	- (2.7)	- (2.7)	- (▲ 4.0)	- (3.5)	-	-	-
香港	- (2.9)	- (▲ 1.2)	- (▲ 4.8)	- (3.9)	-	-	-
中国	6.7 (6.8)	6.1 (6.1)	1.0 (1.2)	8.2 (9.2)	6.1 (6.2)	▲ 3.7 (5.7)	4.5 (5.5)
オーストラリア	2.8 (2.7)	1.8 (1.8)	▲ 4.5 (▲ 6.7)	4.0 (6.1)	1.8 (1.7)	▲ 6.3 (2.3)	1.0 (2.3)
インド	6.1 (6.1)	4.2 (4.2)	▲ 4.5 (1.9)	6.0 (7.4)	4.2 (5.8)	▲ 7.3 (6.2)	8.1 (6.4)
ブラジル	1.3 (1.3)	1.1 (1.1)	▲ 9.1 (▲ 5.3)	3.6 (2.9)	1.1 (0.8)	▲ 9.1 (1.7)	2.4 (1.8)
ロシア	2.5 (2.5)	1.3 (1.3)	▲ 6.6 (▲ 5.5)	4.1 (3.5)	1.4 (1.1)	▲ 10.0 (1.6)	4.9 (1.4)

日本、世界経済の現状と今後

出典元: 外務省「[主要経済指標](#)」消費者物価上昇率

	日	米	独	仏	英	ユーロ圏	EU	露	中	韓	印	伯
2015年	0.8	0.1	0.7	0.1	0.0	0.2	0.1	15.5	1.4	0.7	4.9	9.0
2016年	▲ 0.1	1.3	0.4	0.3	0.7	0.2	0.2	7.1	2.0	1.0	4.9	8.7
2017年	0.5	2.1	1.7	1.2	2.7	1.5	1.6	3.7	1.6	1.9	3.3	3.4
2018年	0.9	2.4	1.9	2.1	2.5	1.8	1.8	2.9	2.1	1.5	3.9	3.7
2019年	0.5	1.8	1.4	1.3	1.8	1.2	1.4	4.5	2.9	0.4	3.7	3.7
2018年8月	1.3	2.7	2.1	2.6	2.7	2.1	2.1	3.1	2.3	1.4	3.7	4.2
9月	1.2	2.3	2.2	2.5	2.4	2.1	2.1	3.4	2.5	2.1	3.7	4.5
10月	1.4	2.5	2.6	2.5	2.4	2.3	2.3	3.5	2.5	2.0	3.4	4.6
11月	0.9	2.2	2.2	2.2	2.3	1.9	1.9	3.8	2.2	2.0	2.3	4.0
12月	0.3	1.9	1.7	1.9	2.1	1.5	1.6	4.3	1.9	1.3	2.1	3.7
2019年1月	0.2	1.6	1.7	1.4	1.8	1.4	1.4	5.0	1.7	0.8	2.0	3.8
2月	0.2	1.5	1.7	1.6	1.9	1.5	1.6	5.2	1.5	0.5	2.6	3.9
3月	0.5	1.9	1.4	1.3	1.9	1.4	1.6	5.3	2.3	0.4	2.9	4.6
4月	0.9	2.0	2.1	1.5	2.1	1.7	1.9	5.2	2.5	0.6	3.0	4.9
5月	0.8	1.8	1.3	1.1	2.0	1.2	1.5	5.1	2.7	0.7	3.0	4.7
6月	0.7	1.6	1.5	1.4	2.0	1.3	1.5	4.7	2.7	0.7	3.2	3.4
7月	0.6	1.8	1.1	1.3	2.1	1.0	1.3	4.6	2.8	0.6	3.1	3.2
8月	0.2	1.7	1.0	1.3	1.7	1.0	1.3	4.3	2.8	▲ 0.0	3.3	3.4
9月	0.2	1.7	0.9	1.1	1.7	0.8	1.1	4.0	3.0	▲ 0.4	4.0	2.9
10月	0.2	1.8	0.9	0.9	1.5	0.7	1.0	3.8	3.8	0.0	4.6	2.5
11月	0.5	2.1	1.2	1.2	1.5	1.0	1.3	3.5	4.5	0.2	5.5	3.3
12月	0.8	2.3	1.5	1.6	1.3	1.3	1.6	3.0	4.5	0.7	7.4	4.3
2020年1月	0.7	2.5	1.6	1.7	1.8	1.4	1.7	2.4	5.4	1.5	7.6	4.2
2月	0.5	2.3	1.7	1.6	1.7	1.2	1.6	2.3	5.2	1.1	6.6	4.0
3月	0.4	1.5	1.3	0.8	1.5	0.7	1.1	2.5	4.3	1.0	5.8	3.3
4月	0.1	0.3	0.8	0.4	0.8	0.3	0.6	3.1	3.3	0.1	7.2	2.4
5月	0.0	0.1	0.5	0.4	0.5	0.1	0.5	3.0	2.4	▲ 0.3	6.3	1.9
6月	0.1	0.6	0.8	0.2	0.6	0.3	0.7	3.2	2.5	▲ 0.0	6.2	2.1
7月	0.3	1.0	0.0	0.9	—	0.4	0.8	3.4	2.7	0.3	6.9	2.3

(備考) 1. 出典: Eurostat, Datastream, 内閣府「海外経済データ」(令和2年8月) 2. 前年同月比(%)
3. 「EU」は全ての期間について英国を除く27か国分。

日本、世界経済の現状と今後

出典元: 外務省「[主要経済指標](#)」失業率

	日	米	独	仏	英	ユーロ圏	EU	露	韓	豪	伯
2015年	3.4	5.3	4.6	10.4	5.3	10.8	10.0	5.6	3.6	6.1	8.3
2016年	3.1	4.9	4.1	10.0	4.8	10.0	9.1	5.5	3.7	5.7	11.3
2017年	2.8	4.3	3.8	9.4	4.3	9.0	8.1	5.2	3.7	5.6	12.8
2018年	2.4	3.9	3.4	9.0	4.0	8.1	7.2	4.8	3.9	5.3	12.3
2019年	2.4	3.7	3.2	8.5	3.8	7.5	6.7	4.6	3.8	5.2	11.9
2018年8月	2.5	3.8	3.4	9.0	4.0	8.0	7.2	4.6	4.2	5.3	12.1
9月	2.3	3.7	3.4	9.0	4.0	8.0	7.1	4.5	4.0	5.0	11.9
10月	2.4	3.8	3.4	8.9	4.0	8.0	7.1	4.7	4.0	5.0	11.7
11月	2.5	3.7	3.3	8.8	3.9	7.9	7.0	4.8	3.8	5.1	11.6
12月	2.4	3.9	3.3	8.8	3.8	7.8	7.0	4.9	3.8	5.0	11.6
2019年1月	2.5	4.0	3.3	8.7	3.8	7.8	7.0	4.9	4.3	5.0	12.0
2月	2.4	3.8	3.2	8.7	3.7	7.8	6.9	4.9	3.7	5.0	12.4
3月	2.5	3.8	3.2	8.6	3.7	7.7	6.9	4.7	3.8	5.1	12.7
4月	2.4	3.6	3.1	8.5	3.7	7.6	6.8	4.7	4.0	5.2	12.5
5月	2.4	3.6	3.1	8.5	3.8	7.6	6.7	4.5	4.0	5.2	12.3
6月	2.3	3.7	3.0	8.5	3.8	7.5	6.6	4.4	4.0	5.3	12.0
7月	2.3	3.7	3.0	8.5	3.8	7.5	6.7	4.5	4.0	5.2	11.8
8月	2.3	3.7	3.0	8.5	3.8	7.5	6.7	4.3	3.1	5.2	11.8
9月	2.4	3.5	3.1	8.4	3.7	7.5	6.6	4.5	3.4	5.2	11.8
10月	2.4	3.6	3.1	8.3	3.7	7.4	6.6	4.6	3.5	5.3	11.6
11月	2.2	3.5	3.2	8.2	3.7	7.4	6.6	4.6	3.6	5.1	11.2
12月	2.2	3.5	3.3	8.2	3.7	7.4	6.5	4.6	3.7	5.1	11.0
2020年1月	2.4	3.6	3.4	7.9	3.9	7.4	6.5	4.7	4.0	5.3	11.2
2月	2.4	3.5	3.6	7.6	3.9	7.2	6.5	4.6	3.3	5.1	11.6
3月	2.5	4.4	3.8	7.6	3.8	7.2	6.5	4.7	3.8	5.2	12.2
4月	2.6	14.7	3.9	8.8	3.9	7.5	6.7	5.8	3.8	6.4	12.6
5月	2.9	13.3	4.1	8.2	3.8	7.7	7.0	6.1	4.5	7.1	12.9
6月	2.8	11.1	4.2	7.7	—	7.8	7.1	6.2	4.3	7.4	13.3
7月	—	10.2	—	—	—	—	—	6.3	4.2	7.5	—

(備考) 1. 出典: Eurostat, Datastream

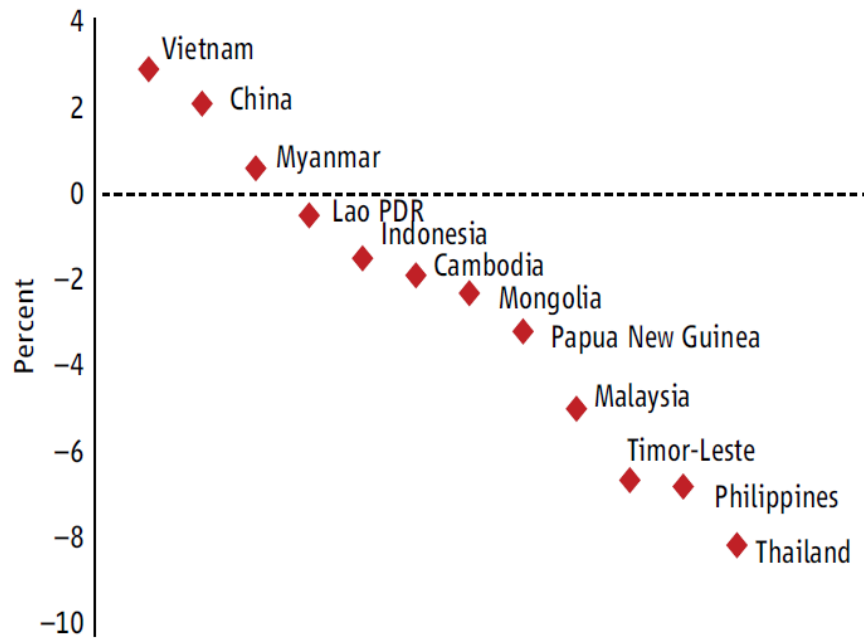
2. 季節調整済(%)。ロシアとブラジルは原数値。

3. 「EU」は全ての期間について英国を除く27か国分。

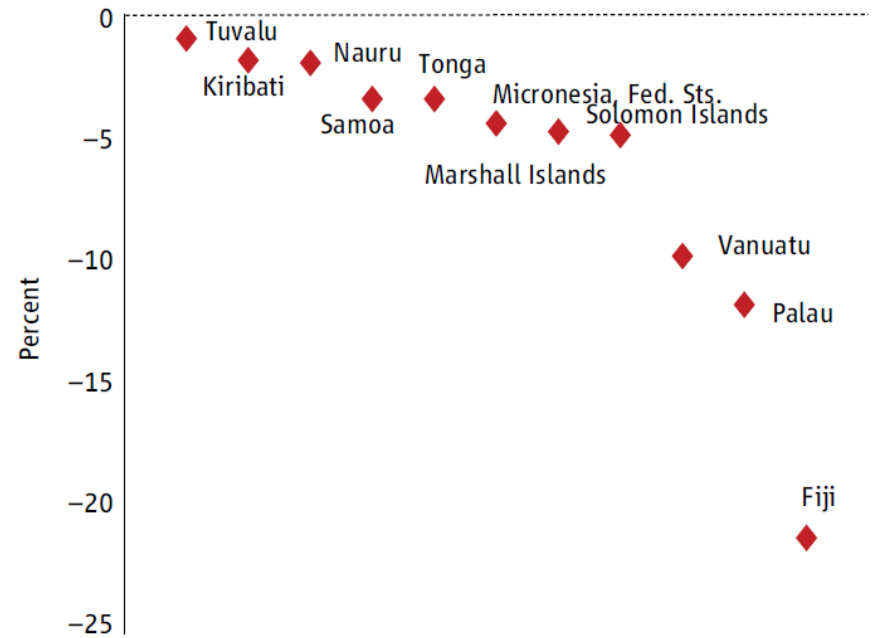
日本、世界経済の現状と今後

出典元: 世界銀行「[東アジア・大洋州半期経済報告書](#)」

a. Developing East Asia



b. Pacific island economies



Source: World Bank staff estimates.

Note: Myanmar growth rate refers to fiscal year from October to September.

日本、世界経済の現状と今後

出典元: 世界銀行「[東アジア・大洋州半期経済報告書](#)」

	2017	2018	2019 ^a	Forecast ^d			
				Baseline 2020	Low case 2020	Baseline 2021	Low case 2021
Developing EAP^a	6.5	6.3	5.8	0.9	0.3	7.4	4.5
China	6.8	6.6	6.1	2.0	1.6	7.9	4.8
Developing EAP excluding. China^a	5.4	5.2	4.8	-3.5	-4.8	5.1	3.4
Developing ASEAN ^a	5.4	5.3	4.8	-3.5	-4.7	5.1	3.4
Indonesia	5.1	5.2	5.0	-1.6	-2.0	4.4	3.0
Malaysia	5.7	4.7	4.3	-4.9	-6.1	6.3	4.4
Philippines	6.9	6.3	6.0	-6.9	-9.9	5.3	2.9
Thailand	4.0	4.1	2.4	-8.3	-10.4	4.9	3.5
Vietnam	6.8	7.1	7.0	2.8	1.5	6.8	4.5
Cambodia	7.0	7.5	7.1	-2.0	-2.9	4.3	3.0
Lao PDR	6.9	6.3	4.7	-0.6	-2.4	4.9	2.8
Myanmar ^c	5.8	6.4	6.8	0.5	-0.9	5.9	3.0
Mongolia	5.4	7.0	5.0	-2.4	-4.3	5.6	3.6
Fiji	5.4	3.5	-1.3	-21.7	-25.0	6.4	5.1
Papua New Guinea	3.5	-0.8	5.9	-3.3	-4.1	3.2	0.6
Solomon Islands	5.3	3.9	1.2	-4.8	-7.4	3.2	2.8
Timor-Leste ^b	-3.8	-0.8	3.4	-6.8	-9.8	3.1	3.0

Source: World Bank staff estimates.

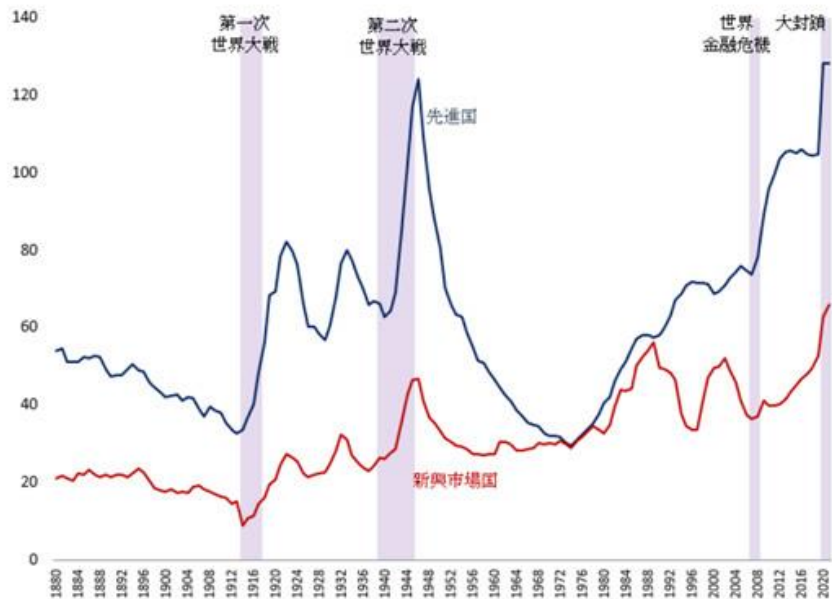
Note: a. Estimate. b. Nonoil GDP. c. Myanmar growth rates refer to the pre- and post-pandemic period for fiscal year from October to September. d. Baseline refers to a scenario of severe growth slowdown followed by a strong recovery. Lower case refers to a scenario of a deeper contraction followed by a sluggish recovery. Weighted averages are calculated for developing EAP.

日本、世界経済の現状と今後

出典元: IMF「コロナ後の世界における財政政策」

膨らむ公的債務

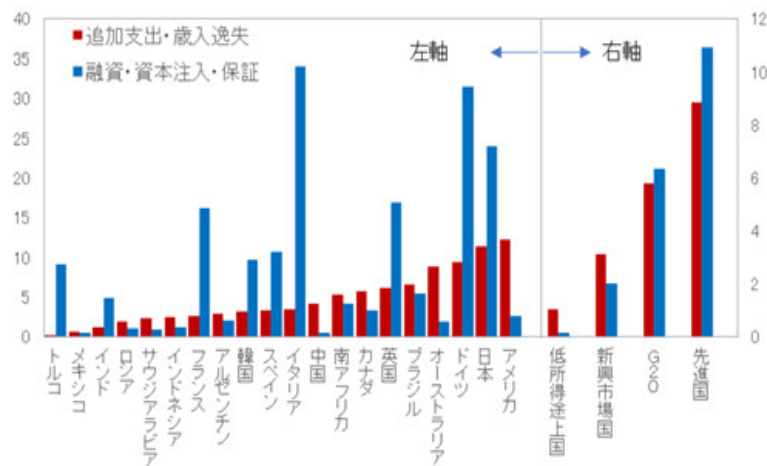
世界の公的債務は2020年に対世界GDP比で史上最高水準の101.5%に達すると見込まれる。
(対GDP比)



出所: Historical Public Debt Database、IMF WEO、Maddison Database Project、IMF職員による試算
注: 先進国27か国と新興市場国25か国を連続サンプリングして先進国・新興市場国のそれぞれについて公的債務総額の対GDP比を示している。平均値は購買力平価ベースのGDPによって加重平均している。

巨額の財政政策パッケージ

先進国と、より規模は小さいが新興市場国はかなりの水準の財政施策を追加予算措置と予算外措置の両面から展開してきている。
(対GDP比)



出所: 各国政府当局とIMF職員による試算。
注: 2020年6月12日時点のデータ。国グループについては、購買力平価で調整した現行レートでの米ドルでのGDPで加重平均した。歳入・歳出の措置には繰延税金や前納は含まれない。詳細は、国ごとの新型コロナ対策財政措置に関する財政モニターデータベースを参照。G20=主要20か国・地域

未来投資会議「第42回基礎資料(令和2年7月30日)」

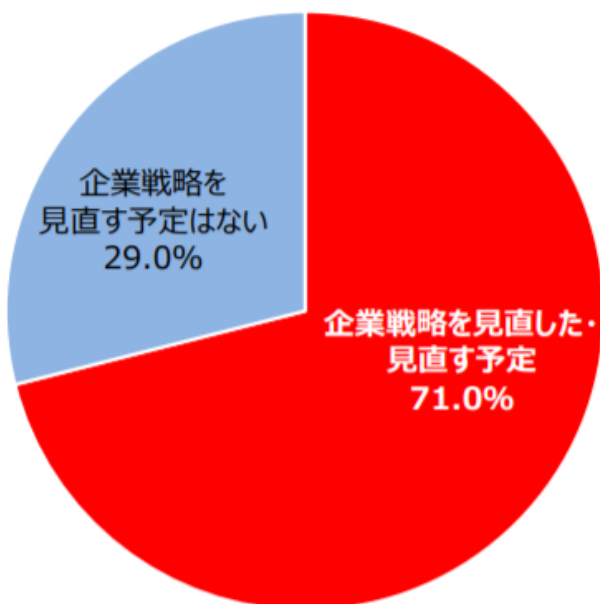
企業戦略

ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの企業戦略

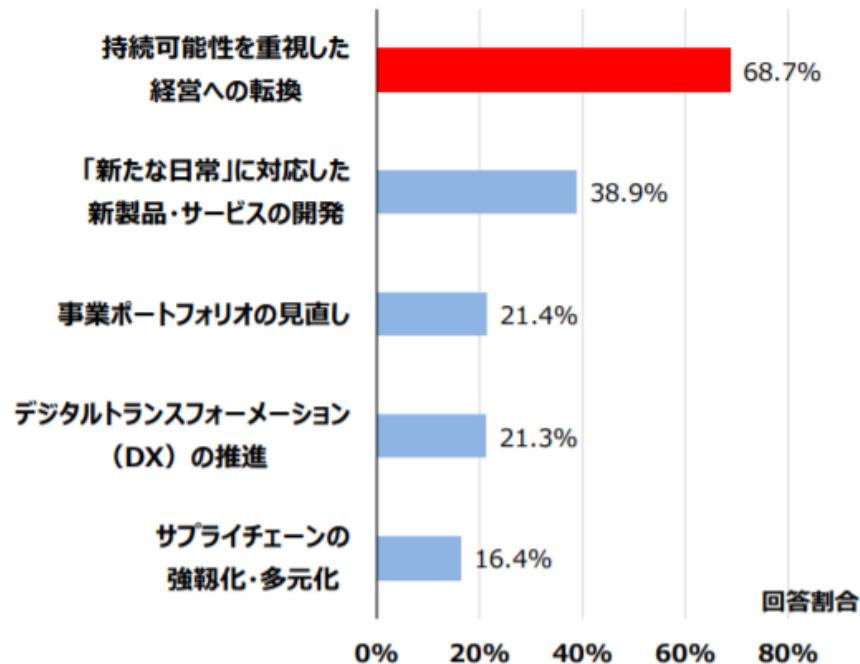
- 日本企業に対するアンケート調査によると、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナを見据え、「企業戦略を見直した」又は「見直す予定がある」と回答した企業は71%。
- 見直しの内容としては、「持続可能性を重視した経営への転換」が69%と最も多い。

ウィズ・コロナ、ポスト・コロナを見据えた企業戦略の見直し

企業戦略の見直しの有無



うち、見直しの内容 (上位3項目)



(注) 2020年6月29日-7月8日において、企業を対象としたアンケート調査。「ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、貴社ではどのような企業戦略の見直しを行う予定ですか？または行いましたか？」との質問に対する回答割合（回答数13,184社）。

(出所) 東京商工リサーチ「第6回新型コロナウイルスに関するアンケート調査」（2020年7月14日公表）を基に作成。

未来投資会議「第42回基礎資料(令和2年7月30日)」

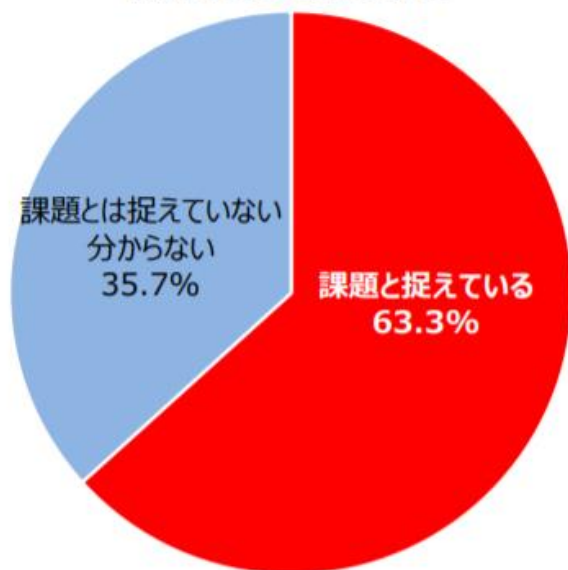
企業戦略

サプライチェーンの課題

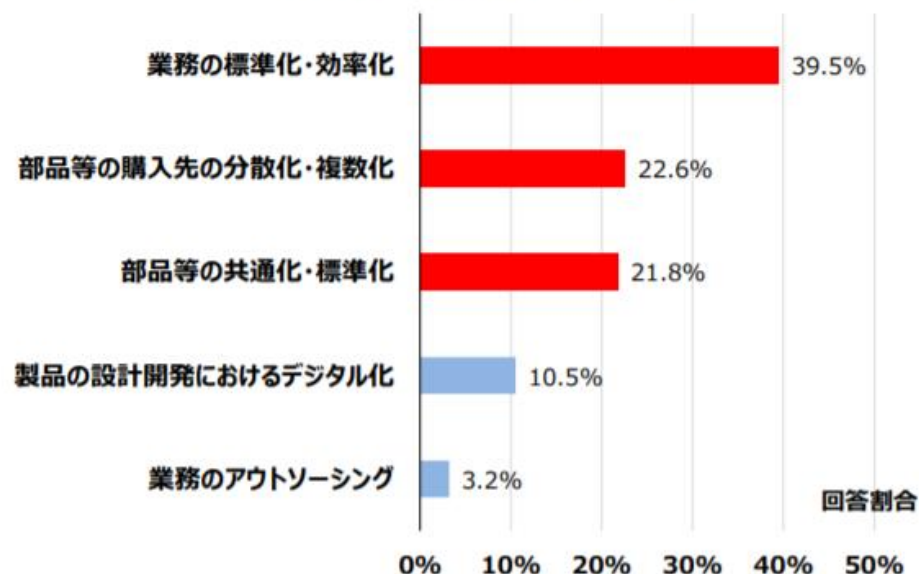
- 日本企業に対するアンケート調査によると、今回の経験を踏まえて、今後注力すべきサプライチェーン上の課題として、「業務プロセスの改革」が必要と考えている企業は、全体の63.3%。
- 課題の内容としては、業務の標準化・効率化（39.5%）、部品等の購入先の分散化・複数化（22.6%）、部品の共通化・標準化（21.8%）などが挙げられている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大での経験を踏まえて、
今後注力すべきサプライチェーン上の課題（製造業）

「業務プロセスの改革」を課題と捉えている企業の割合



うち、課題の詳細（単数回答）



(注) 2020年5月18-20日に、日本の製造業のサプライチェーン担当者に対して実施したアンケート調査。(有効回答数: 196人)

(出所) 野村総合研究所「新型コロナウイルス感染症の影響を受けた企業のサプライチェーン上の対応状況と課題」(2020年6月12日公表)を基に作成。

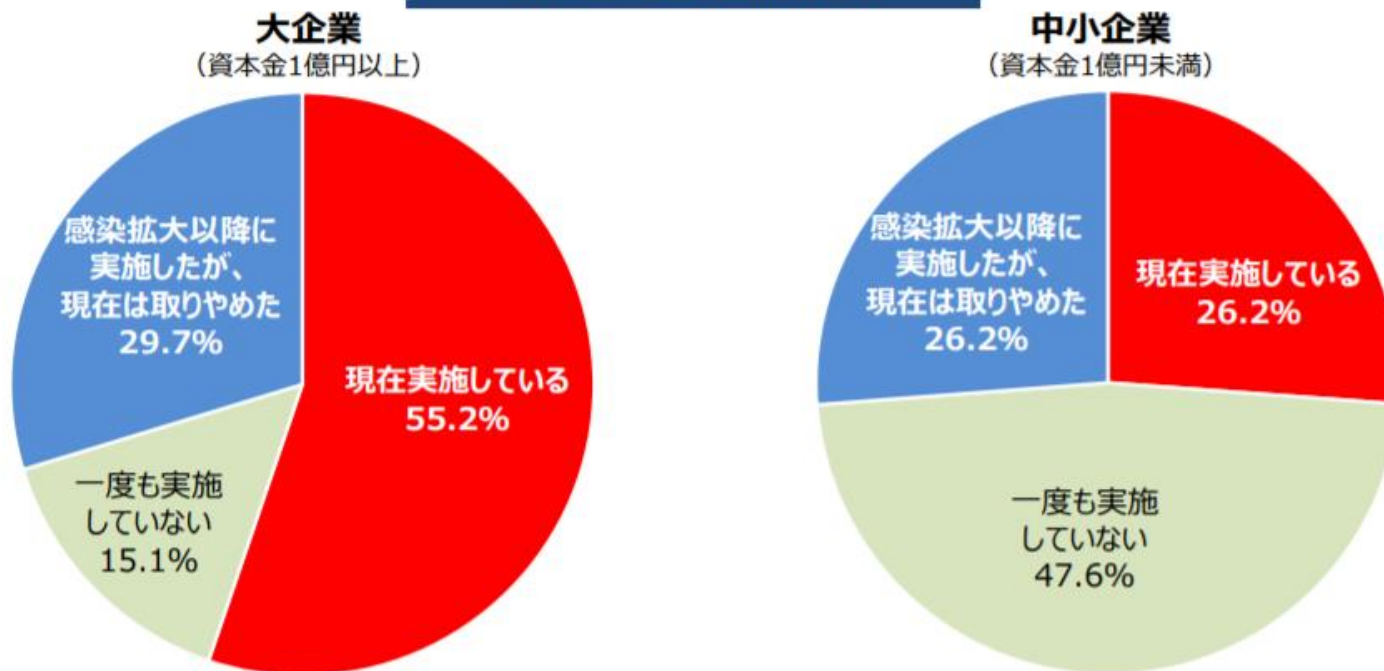
未来投資会議「第42回基礎資料(令和2年7月30日)」

働き方の変化

テレワークの実施割合

- 2020年6-7月に実施した企業に対するアンケートによると、「テレワークを現在実施している」と回答した企業の割合は、大企業では55.2%、中小企業では26.2%。
- 一方、「感染拡大以降に実施したが、現在は取りやめた」と回答した企業は、大企業では29.7%、中小企業では26.2%となっている。

テレワークの実施割合



(注) 2020年6月29日-7月8日にかけて実施したアンケート調査 (大企業の回答数: 2,400社、中小企業の回答数: 11,956社)
「貴社では、「新型コロナウイルス」の感染拡大を防ぐため、在宅勤務・リモートワークを実施していますか？」に対する回答結果。
(出所) 東京商工リサーチ「第6回新型コロナウイルスに関するアンケート調査」(2020年7月14日公表) を基に作成。

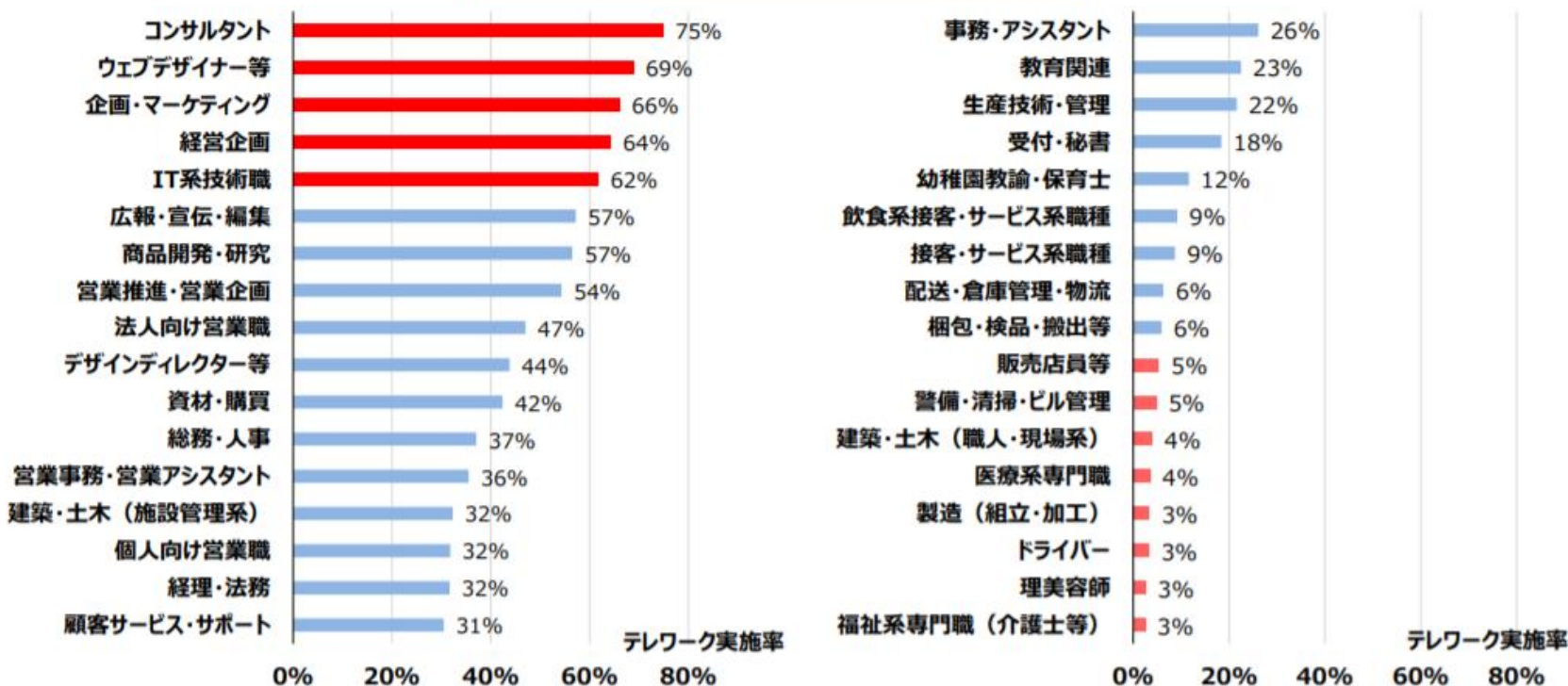
未来投資会議「第42回基礎資料(令和2年7月30日)」

働き方の変化

職種別のテレワーク実施率

○ 職種別のテレワークの実施率は、コンサルタント（75%）、ウェブデザイナー（69%）、企画・マーケティング（66%）等の専門職で高く、福祉系専門職（3%）、理美容師（3%）、ドライバー（3%）等のサービス職で低い。

職種別のテレワーク実施率
(正社員、2020年5月29日-6月2日)



(注) 全国の20-59歳の就業者2万人を対象に実施したアンケート調査。

(出所) パーソル総合研究所「第三回・新型コロナウイルス対策によるテレワークへの影響に関する緊急調査」(2020年6月11日公表)を基に作成。

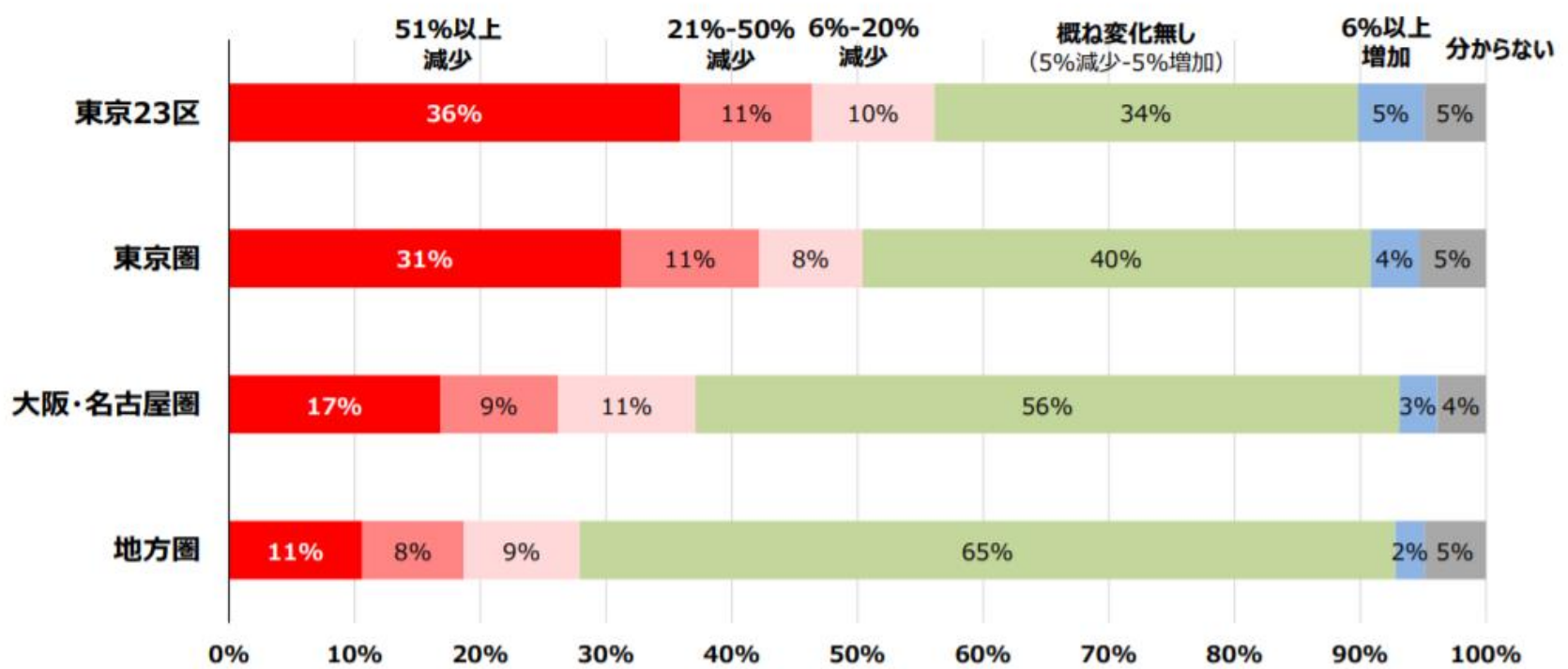
未来投資会議「第42回基礎資料(令和2年7月30日)」

働き方の変化

通勤時間の変化

○ テレワークの拡大もあり、東京23区・東京圏では、通勤時間が半分以上減少した者が3割以上にのぼる。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による
通勤時間の変化



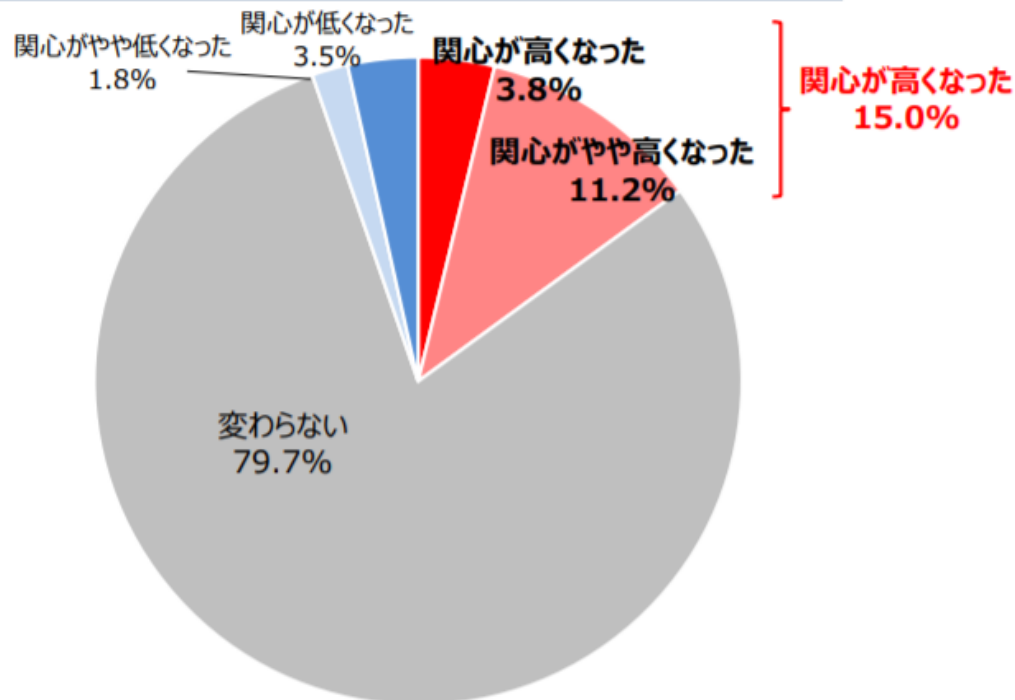
(注) 2020年5月25日-6月5日にかけて実施したアンケート調査(回答数10,128名)
「今回の感染症の影響下において、1週間の中で通勤にかかる時間はどのように変化しましたか」に対する回答割合
東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 大阪圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県 名古屋圏：岐阜県、愛知県、三重県
(出所) 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(2020年6月21日公表)を基に作成。

地方移住

地方移住への関心の変化

- 2020年5-6月に実施した個人に対するアンケートによると、感染拡大の影響により、「地方移住への関心が高まった」と回答した三大都市圏居住者の割合は、全体の15.0%。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による 地方移住への関心の変化

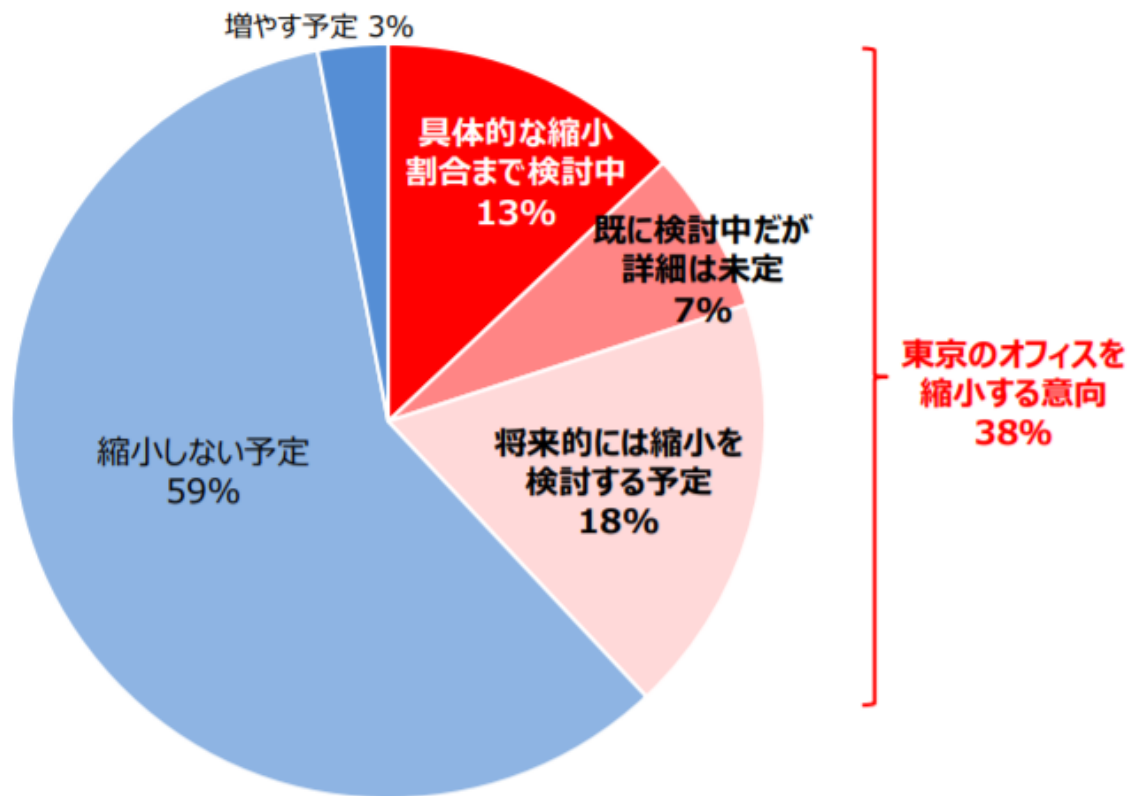


(注) 2020年5月25日-6月5日にかけて実施したアンケート調査(回答数10,128名)
「今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に変化はありましたか」に対する回答結果。(三大都市圏(東京圏、大阪圏、名古屋圏)居住者への質問)
東京圏: 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 大阪圏: 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県 名古屋圏: 岐阜県、愛知県、三重県
(出所) 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(2020年6月21日公表)を基に作成。

未来投資会議「第42回基礎資料(令和2年7月30日)」

- 企業経営者に対するアンケートによると、東京にオフィスを持つ経営者のうち、全体の38%が東京のオフィスを縮小する意向を持つと回答。

東京オフィスの縮小意向を持つ企業経営者の割合



(注) 2020年6月17-19日にかけて、東京にオフィスを構えている企業経営者に対して実施したアンケート調査（回答数：776人）
「東京都内にオフィスを構えている方にお伺いします。今後、都内にある貴社のオフィスの縮小を考えていますか？」に対する回答結果。
(出所) 三菱総合研究所「企業経営者アンケート」を基に作成。

未来投資会議「第42回基礎資料(令和2年7月30日)」

経済社会

経済社会の在り方に関する国際的議論

- スイスの世界経済フォーラムは、2021年1月のダボス会議のテーマを「グレート・リセット」とし、今回の危機を契機に、より公平で、持続可能で、強靱な未来を作るため、経済社会の基盤をリセットする必要があると主張。

1. 公平性の確保

- ・ 今回の危機は、社会の結束、機会の不平等、包摂性の観点で、古いシステムが持続可能でないことを明らかにした。
- ・ グレート・リセットにより、全ての人間の尊厳が尊重される、新たな社会契約を作る必要がある。

2. 第4次産業革命の加速

- ・ 今回の危機は、第4次産業革命の時代への移行を加速している。
- ・ デジタルやバイオ等の新たな技術が、人間中心であり続け、社会全体に貢献し、全ての人が公平に利用できるものとする必要がある。

3. 国際協力の回復

- ・ 今回の危機は、我々がいかに相互に接続しているのかを示した。
- ・ 今後50年の課題を解決するための、スマートな国際協力に関する実効的な仕組みを回復しなければならない。

4. ステークホルダー資本主義

- ・ 短期から長期志向へ、株主資本主義からステークホルダーとしての責任へと、我々の考え方を変えることが必要。
- ・ 環境、社会、良いガバナンスを、企業や政府の説明責任の一部としなければならない。

P・ドラッカー「未来について」

変化への抵抗の底にあるものは無知である。
未知への不安である。

しかし変化は機会と見なすべきものである。

変化を機会として捉えたとき、初めて不安は消える。

<ご留意いただきたい点>

- 当資料は、情報提供を目的として、前田マネジメントが作成したものです。
- 当資料の内容、データ・分析等は作成者が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成基準日2020年10月1日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- また、三井住友銀行が内容等を保証したり、責任を負うことはありません。